

## 河川における特定外来生物の緊急調査結果（中間報告）

対応の緊急性が高い特定外来生物 4 種について、県内河川での分布がすでに数ヵ所報告されており、急速な拡大が予想される。外来生物の防除については、早期対策（駆除）が必須であるが、まずは対策の優先順位や方法を検討するため、全県の緊急調査を実施した。

平成 21 年度以降に対策を実施する予定である。

## 調査方法

対象種：ナガエツルノゲイトウ（植物）、オオフサモ（植物）、ミズヒマワリ（植物）、カワヒバリガイ（貝類）

1）調査対象河川：県管轄河川全域

2）調査者：各地域整備センター、委託業者、緊急雇用による作業員などによる調査

3）調査方法：

・植物 3 種に関して、管轄河川を（点で調査するのではなく）連続的に目視確認をし、目視範囲と生息地域を地図上で記録。

・カワヒバリガイについては、すでに生息がわかっている場所も含めて、200～300mおきに付着の有無を確認する。

・現場写真（葉の形態が分かるクローズアップと、分布の範囲がわかる遠景）を撮影し、別紙記録表に記載する。

・種の判別が必要な場合は、生物多様性センターで中央博物館の協力のもと、同定する。

## 調査結果

調査の結果、下記の地点などで生育・生息が確認された（図参照）。

ナガエツルノゲイトウ	新川で 9 地点
オオフサモ	高滝ダム、作田川など 3 2 地点
ミズヒマワリ	栗山川で 4 8 地点
カワヒバリガイ	手賀沼、黒部川で 3 地点

（調査結果が提出されていない地域整備センターがある）

## 今後の対策

今後、本結果をもとに、河川環境課とともに優先順位を考慮して、対策をとってもらおう予定（内谷川ではオオフサモの除草を実施した）。

